

額田郡の歴史

西三河地方のほぼ中央、矢作川の東岸に位置する。現在は幸田町のみが所属している。かつては現在の岡崎市のうち矢作川以東の地域と幸田町の東半分及び豊田市の旧下山村南部が該当していた。郡名は古代氏族の額田部（ぬかたのべ）に由来するという説のほか、ぬかるみの多い土地を意味する古語が転じたという説などがある。戦国時代から、西三河における一大拠点のひとつとして台頭し、徳川家康の出身地となった。江戸時代には岡崎藩をはじめ奥殿藩や西大平藩などが設置されたほか、東海道の宿場町も設けられ郡域は発展した。廃藩置県後は旧岡崎藩領に額田県が置かれるなどしている。1916年に岡崎町が市制施行して岡崎市が成立。戦後は周辺から岡崎市への編入が進んだ。





六ッ美地域は北側および東側が額田郡と接しており、額田郡で関係の深い村は、1886（明治22）年当時の名称で、岡崎村（柱、針崎、戸崎、羽根、若松）、福岡村（高洲、土呂、上地、大谷）、相見村（坂崎、久保田、長嶺、大草、高力、鷲田、岩堀（菱池）、横落）および三島村（天白、久後崎、明大寺、六名）などである。

明治期以後の関係村落の変遷は以下のようになっている。1889年は明治22年である。

1889年直前	1889.10.01	1906.05.01	1909.07.28	1952.04.01
菱池村	相見村 (あいみ)	広田村	幸田村	幸田町
北鷲田村				
横落村				
大草村				
高力村				
坂崎村	坂崎村 (さかざき)	広田村	幸田村	幸田町
長嶺村				
久保田村				
深溝村	深溝村 (ふこうず)	広田村	幸田村	幸田町
芦谷村				
萩村				

1889年直前	1889.10.01	1893.11.08	1955.02.01
福岡村	福岡村 (ふくおか)	福岡町	岡崎市
上地村			

以下は「三河國額田郡誌」の記載を引用している。

■和名抄によると、710（和銅3：奈良時代）年頃より、郷の名称が起こり、715（靈龜元：奈良時代）より正式に郷という名称が使用された。額田郡は新城郷、鴨田郷（岩津・・・）、位賀郷（伊賀・・・）、額田郷、麻津郷、六名郷（六名・・・）、大野郷、山綱郷（本宿・・・）の8郷から構成されていた。

【和名類聚抄（和名抄）】

和名類聚抄（わみょうるいじゅしょう）は、平安時代中期に作られた辞書である。承平年間（931～938）、勤子内親王の求めに応じて源順（みなもとのしたごう）が編纂した。和名類聚抄は「倭名類聚抄」「倭名類聚抄」とも書かれ、その表記は写本によって一定していない。一般的に「和名抄」「倭名鈔」「倭名抄」と略称される。

■莊園は、深溝庄（幸田・・・）、山中庄（本宿・・・）、乙川庄（美合・・・）、男川（豊富・・・）、砥鹿庄（宮崎・・・）、作手庄（宮崎・・・）、日近庄（下山・・・）、中山庄（河合・・・）、菅生庄（常盤・・・）、乙見庄（岩津・・・）が存在した。

■1640（寛永17）年の柱村、針崎村、戸崎村、羽根村、若松村は1889（明治22）年に岡崎村に統合された。

■1640（寛永17）年の高洲村、土呂村、上地村、大谷村は1889（明治22）年に福岡村に統合された。

■1640（寛永17）年、および1642（寛永19）年では坂左右村および浦邊村は額田郡に属していたが、1664（寛文4）年の印知集では碧海郡に属していた。

■1642（寛永19）年には、宮地村と法性寺村は碧海郡に属していた。1664（寛文4）年の印知集では額田郡に属し、1701（元禄14）年には碧海郡に属していた。

【印知集（寛文印知）】

寛文印知（かんぶんいんち）は、1664（寛文4）年に江戸幕府が日本全国の大名に対して一斉に領知判物・領知朱印状・領知目録を交付した法律。また、翌1665（寛文5）年には、公家・門跡・寺社などに対しても同様の措置が取られ、江戸幕府の大名領知権と日本全国の土地支配権を名実ともに確立した。全国の大名・公家・寺社などが持っていた朱印状が一斉に回収・再交付された

ため、これを特に寛文朱印改（かんぶんしゆいんあらため）と呼び、これに基づいて交付された朱印状を特に「寛文朱印状」と呼んでいる。

■醍醐天皇（885～930）の時の国司（三河）は、平 篤行（国守）、源 等（国守）、源 宗干（権守）、源 清平（権守）、源 兼忠（権守）、紀 淑光（権守）と記載されている。

碧海郡誌「町村の沿革：中島・高畑」の項に「中島、高畑の地は蘆島五郷の1つである河邊（かわべ）郷と呼ばれていた。醍醐天皇（885～930）の延喜（901～923）の御代に、四條方盛三河守がこの地に赴任し、河邊（かわべ）郷を中島郷と改名した。」とある。

【平 篤行（不詳～910）】

平 篤行（たいらの あつゆき）は、平安時代前期・中期の光孝天皇の玄孫（やしやご）。903（延喜3）年～907（延喜7）年に三河守。官位は従五位上。

【源 等（880～951）】

源 等（みなもとの ひとし）は、平安時代前期から中期にかけての公家。嵯峨源氏、中納言・源希の次男。官位は正四位下・参議。小倉百人一首では参議等。907（延喜7）年～912（延喜12）年に三河守。

【源 宗干（不詳～940）】

源 宗干（みなもとの むねゆき）は、平安時代前期から中期にかけての官人・歌人。光孝天皇の皇子是忠親王の子。娘に閑院大君がいる。官位は正四位下・右京大夫。三十六歌仙の一人。三河権守。

【源 清平（877～945）】

源 清平（みなもとの きよひら）は、平安時代前期から中期にかけての公卿。式部卿・是忠親王の次男。916（延喜16）年のみ三河権守。翌917（延喜17）年は三河守。

【源 兼忠（901～958）】

源 兼忠（みなもとの かねただ）は平安時代中期の公卿。清和天皇の孫で、貞元親王の子。928（延長6）年のみ三河権守。

【紀 淑光（869～939）】

紀 淑光（きの よしみつ/ よしてる）は、平安時代初期、中期の官人・漢詩人。中納言・紀長谷雄の三男で母は文室氏。929（延長7）年から三河権守。

三河守はこのほかにも紀 濟行（従四位上）が919（延喜19）年に任官されているが、碧海郡誌にある四條方盛三河守という人物が、前記の人物からは特定できない。これは、「中島の領主」（中島案内）に記載されている延喜年間の四條大納言と同じ人物と考えられる。

■板倉氏の家系は次のようになっている。

勝重（伊賀守）—重昌（内膳正）—重直（筑後守）—重行（筑後守）—勝音（筑後守）—勝香（帯刀）—勝延（主悦）—勝宦（主悦：板倉小次郎祖）

■1640（寛永17）年では土呂村、深溝村は板倉重矩が領主であった。八町村、明大寺村、柱村、針先村、戸崎村、羽根村、若松村などは本多忠利が領主であった。高力村、鷲田村、横落村、岩堀村、上地村、久保田村、長嶺村などは松平正綱が領主であった。坂左右村、浦邊村、法性寺村は本多忠利が領主で、宮地村は妙國寺と犬頭社の領地であった。

【板倉 重昌（1588～1638）】

板倉 重昌（いたくら しげまさ）は、安土桃山から江戸時代初期にかけての武将で三河深溝藩の藩主。1588（天正16）年に板倉勝重の次男として駿河駿府にて誕生し、1605（慶長10）年に徳川家康の参内に伺候し従五位下の内膳正（ないぜんのかみ）に叙任された。松平正綱・秋元泰朝と供に徳川家康の近習出頭人と呼ばれた。1614（慶長19）年の大坂冬の陣では、豊臣方との交渉にあたった。

【本多 忠利（1600～1645）】

本多 忠利（ほんだ ただとし）は、三河国の岡崎藩主。広孝系本多家の3代目。大坂夏の陣に父と共に参戦し、戦功を挙げる。1623（元和9）年に父が没し、家督を継ぐ。1634（寛永11）年には6500石を加増された。

1645（正保2）年に遠江国横須賀藩への移封を命じられたが、46歳で病死した。

[松平 正綱（1576～1648）]

松平 正綱（まつだいら まさつな）は、江戸時代初期の旗本で相模国の玉縄藩初代藩主。大河内松平宗家の初代で、世界最長の並木道として知られる日光杉並木の寄進者として知られている。1596（文禄元）年頃より家康の側近として重用されて、板倉重昌・秋元泰朝と並んで家康の近習出頭人の地位を占めた。1609（慶長14）年頃から勘定頭の任も兼ねる。2代将軍徳川秀忠の下でも勘定頭として活躍した。

[岡崎藩]

・本多彦次郎家統治時代

1602（慶長6）年に徳川氏譜代の重臣本多康重（本多彦次郎家）が上野国白井藩より5万石で岡崎藩に入った。康重は家康の信任が厚く、3万石加増の5万石で藩主になっている。第3代藩主本多忠利時代の1634（寛永11）年、5000石の加増を受ける。1645（正保2）年、第4代藩主本多利長が遠江国横須賀藩5万石へ移封された。「手永」の制度は本多康重が藩の支配体制を整えるために1602（慶長6）年頃に始めたと言われている。歴代藩主は以下のようにになっている。

本多康重（やすしげ）⇒本多康紀（やすのり）⇒本多忠利（ただとし）⇒本多利長（としなが）

・水野氏統治時代

1645（正保2）年、第4代藩主本多利長が遠江国横須賀藩へ移封された直後に三河吉田藩から水野忠善が5万石で入った。藩政では新田開発、支配機構の整備などが行なわれた。第2代藩主水野忠春が奏者番・寺社奉行に任じられ、第4代藩主水野忠之は老中として享保の改革に参加した。第7代藩主水野忠任は、1762（宝暦12）年に肥前国唐津藩6万石へ加増移封された。歴代藩主は以下のようにになっている。

水野忠善（ただよし）⇒水野忠春（ただはる）⇒水野忠盈（ただみつ）⇒水野忠之（ただゆき）
⇒水野忠輝（ただてる）⇒水野忠辰（ただとき）⇒水野忠任（ただとう）

・松井松平家統治時代

代わって下総古河藩より、松平康福が5万4000石で入る。康福は幕閣として幕政に参加していたことから、藩政の治績はほとんどない。1769（明和6）年石見国浜田藩へ移封された。

・本多平八郎家統治時代

代わって本多忠肅が5万石で入る。本多平八郎家の統治時代は、藩財政難に悩まされた時代である。本多平八郎家は本多忠勝以来の名門であったが、相次ぐ移封と石高に較べての家臣の多さから財政は窮乏していた。第2代藩主本多忠典は財政再建を目指した。矢作川沿いの農村で綿作が盛んに行なわれ、三河木綿が生産されるようになった。第6代藩主本多忠直時代の1869（明治2）年に版籍奉還が行なわれて、岡崎藩知事に任じられ、1871（明治4）年の廃藩置県で廃藩となった。歴代藩主は以下のようにになっている。

本多忠肅（ただとし）⇒本多忠典（ただつね）⇒本多忠顕（ただあき）⇒本多忠考（ただなか）
⇒本多忠民（ただもと）⇒本多忠直（ただなお）

・幕末の領地

碧海郡のうち95村、幡豆郡のうち9村、額田郡のうち110村。山方手永の中村、坂左右、野畑、若松、針崎、柱、羽根、井内、下和田、国正、正名、永野、定国（13村）と堤通手永の中之郷、上青野、高橋、上合飲木、下合飲木、高落、新村、西浅井、東浅井、安藤、福桶、下三ツ木、上三ツ木、下青野、在家、土井、牧御堂、法性寺、宮地、赤渋（20村）は岡崎藩に属し、六ツ美のほとんど（中島、高畑、安藤、小藪を除く）は岡崎藩であったと言える。

本項は以下の資料を引用している。

[三河國額田郡誌]

発行者：生田良雄

発行所：愛知県郷土資料刊行会

発行日：1981（昭和56）年2月21日復刻

原著：三河國額田郡誌

発行者：愛知県額田郡役所

印刷所：西濃印刷（株）

発行日：1924（大正13）年3月20日

[愛知県碧海郡誌]

発行所：（株）千秋社

印刷所：図書印刷（株）

発行日：2000（平成12）年6月15日

原著： 参河國碧海郡誌

発行者：碧海郡教育會

印刷所：江戸川印刷（株）

発行日：1916（大正5）年10月15日